

現代日本語における副詞「ちゃんと」の機能に関する考察

吉本 裕史 (名古屋大学大学院博士後期課程)

要旨

本稿は現代語の副詞「ちゃんと」の機能について考察する。従来、「ちゃんと」は様態の副詞として記述されることが多い。しかし、様態の副詞とは異なる「ちゃんと」の機能を指摘する先行論も存在し、「ちゃんと」は多機能語であることが考えられる。そこで、本稿では、先行論が指摘した「ちゃんと」の機能に注目し、統語的条件をもとにⅠ型とⅡ型を設定する。そして、実際の用例をⅠ型とⅡ型に分類し、それぞれの確例について分析する。結論として、先行論がその位置づけを定めていなかったⅡ型を、評価成分に相当するものとして位置づける。また、「ちゃんと」は、様態の副詞と評価の副詞の、連続的な様相を示す副詞であることを述べる。

1. はじめに

現代語の副詞「ちゃんと」は、しばしば様態の副詞として記述される。しかし、一方で、今西(2004)により、様態の副詞とは異なる機能があることが指摘され、「ちゃんと」は複数の機能を有する多機能語である可能性が示されている。「ちゃんと」が多機能語であるならば、様態の副詞としての記述に加え、どのような機能を有するのか記述する必要がある。

しかし、「ちゃんと」の多機能性については、先行論において十分に議論されておらず、不明な点が多い。また、先行論は主に意味的観点から分析を行っており、「ちゃんと」がどのような文法的特徴を有するかという点についても明らかでない。先行論の指摘を踏まえた上で、意味的観点とは異なる観点から、「ちゃんと」の文法的特徴について分析する必要がある。

そこで、本稿では、現代語「ちゃんと」の多機能性及び文法的特徴について考察を試みる。

2. 先行研究

本節では、先行論における「ちゃんと」に関する記述を確認する。従来の研究では、「ちゃんと」の意味が辞書的に記述されることがある。しかし、「ちゃんと」一語を詳細に分析するものは今西(2004)の他はない。

2.1 飛田・浅田(2002)

飛田・浅田(2002)は、「ちゃんと」を「理想や規範の状態に完全に合致して模範的である様子を表す」擬態語とする。また、その意味を大きく三分したうえで、「対象の状態を理想や規範に到るまで確実に達成することが要求されるというニュアンスで、しばしば要求・命令、釈明、確認の文脈で用いられる」(飛田・浅野 2002:278)ことを述べる。

- (1) 理想や規範の状態に完全に合致するという意味
 - a. あなた、朝ごはんちゃんと食べてる？
 - b. うろろうしないでちゃんと並べ。
 - c. 先方にはちゃんと話をつけておくよ。
- (2) 確実に信頼できるという意味

- a. ちゃんとした店で買ったんだから確かな品だよ。
 b. 光男、見た目は暴走族っぽいけど、考え方なんか結構ちゃんとしてるのよ。
- (3) 予期されたとおりであるという意味
 a. あんたたちがうまくいっていないことぐらい、私にはちゃんとわかってましたよ。
 b. 金に困ってるのをおやじはちゃんと知ってた。

(飛田・浅野 2002:277-278)

飛田・浅野(2002)は「ちゃんと」を擬態語として分析し、その意味や使用される文脈について記述する。ただし、統語的条件が意味分類に与える影響については記述がない。例えば、(2)の意味は「ちゃんとした」や「ちゃんとして(いる)」という形式の場合にのみ認められるのかといった点には説明がない。

2.2 仁田(2002)

仁田(2002)は、「ちゃんと」を「動き様態の副詞」とし、その中でも、「はっきり」「きっぱり」等と同じく「明晰性に関わる副詞」とする。「動き様態の副詞」とは、「動詞の表す動きそのものの展開過程の局面に内属する諸側面を取り上げ、そのありようを差し出す(仁田 2002:84)副詞のことであり、様態の副詞の中核的な存在とされる。そして、「明晰性に関わる副詞」とは、「動きの勢い・強さを表すことが明確で中心ではあるものの、明晰性や密着性に関わったりそこから発したりしている分、勢い・強さの内に動きの質・様への関係をそれなりに含んでいる」(仁田 2002:91)副詞とされる。

また、(4)の「ちゃんと」について、「明快さ・正確さを表しながら、周辺的存在として、動きの勢い・強さに関わっている」(仁田 2002:91)と述べる¹。

- (4) 「そのとき、藤岡さんにちゃんと説明すればよかったんでしょうけど、」

(海渡英祐『死の国のアリス』、仁田 2002:91)

仁田(2002)は、「動き様態の副詞」の中に「ちゃんと」を位置づける。さらに、その一側面として明晰性に関わるという特徴を記述している。ただし、挙例は一例のみに留まるため、対象を拡大した分析が必要だと考えられる。

2.3 今西(2004)

今西(2004)は、副詞「ちゃんと」に様態の副詞とは異なる機能があることを指摘する。(5)(6)は、「ちゃんと」が「理想や規範の状態に完全に合致して模範的である様子」を表さず、様態の副詞らしからぬ例であることを述べる。

- (5) 津田はお延の指を眺めた。そこには自分の買ってやった宝石がちゃんと光っていた。
 (夏目漱石『明暗』)
- (6) 腕をのばし洗面器をひき寄せると、その中にあるのは彼の愛飲するボルドーのびんであった。ボルドー酒ならぬ単に赤く色のついたサイダーなのである。ちゃんと栓抜きとコップもはいつている。
 (北杜夫『楡家の人びと』)

¹ 仁田(2002)では、動きの勢い・強さは抽象的なレベルで取り上げられており、「力学的なエネルギー量の多寡が目に見える形で現れているものだけでなく、動き遂行の完全性や動き実現の深度・程度性といったもの、さらに量性や回数性に関連するものも、基本的にエネルギー量に関わるものとして、動きの勢い・強さとして扱う」(仁田 2002:85)とされる。

(5)は、「宝石の光り方」ではなく、「お延の指で宝石が光っているかどうか」を、(6)は「洗面器の中での栓抜きとコップのたたずまい」ではなく、「洗面器の中に栓抜きとコップが入っているかどうか」を話題とする文とされる。

そして、様態の副詞とは異なる「ちゃんと」があることを、統語的条件から裏付けるため、(7)(8)(9)を挙げる。

(7) しかし、この時代にこれだけの絵画理論を結晶させて見せただけでも、ピカソだよ。しかも、あの網目の直線と柱の交錯を見なさい。それに一寸、松の枝ぶりを柔い線を配している格好なんて、ちゃんと伝統も失っちゃいない。(横光利一『旅愁』)

(8) 海老原さんは二十年ほど前、袋井市の秋祭りでレモンの苗木を目にして、自宅でレモンを作って紅茶を飲もうと思い、購入。しかし、植えた木にはまん丸の大きな実がつき始め、植木屋さんにだまされたと思ったほど。(中略) 海老原さんは「色と味はちゃんとレモンです。マーマレードや化粧品、お風呂に入れてもいいですよ」と話していた。(読売新聞 2004年1月29日朝刊(東京)33面)

(9) ミニバンの運転手など、一見ぶっきらぼうで、本当に降りるとこで教えてくれるのかなと思うていると、ちゃんと「何本目の道を曲がって」という風に親切。

(豊田勇造『歌旅日記—ジャマイカ編』)

いずれの例も、様態の副詞が出現しないはずの統語環境に、「ちゃんと」が現れている。すなわち、(7)では否定のスコープ外、(8)では名詞修飾の位置、(9)では形容詞修飾の位置に、それぞれ「ちゃんと」が出現している。

さらに、様態の副詞とは異なる「ちゃんと」を分析するため、(10)を示す。

(10) A: ほら、ちゃんと雨が降り出したよ。

B: えっ、今日は雨の予報だったの?

(今西 2004:6)

今西(2004)は、(10)では、話し手は「雨が降る」ことを知らなければ、「ちゃんと」を使用できず、聞き手も「雨が降る」ことを知らなければ、話し手の発話を理解できないことから、「なんらかの背景知識の存在が副詞「ちゃんと」の使用及び文中での働きにかかわっている」(今西 2004:6)と指摘する。そして、(10)を以下のように分析する。

話し手は「天気予報で雨が予想されている」ことをうけて「予想通りに事態が推移するコト」が理想的・模範的であるとの知識を活性化させている。「降雨現象の開始」という事柄は活性化されたこの知識と完全に一致するものである。つまり話し手は「予想通りに事態が推移するコト」が理想的・模範的であるとの知識を背景として「雨が降り出した」という事柄を捉え、背景知識と当該の事柄が一致していることを副詞「ちゃんと」を使うことによって表し、そのことを通じて当該の事柄を意味づけていると考えるのである。

(今西 2004:6)

以上の分析を踏まえ、「ちゃんと」には、「話し手の持つ理想的・模範的な事柄に関する知識を背景として、ある事柄をこれら知識との一致という観点から意味づける」働きを持つものがあることを指摘する。このような働きを持つ「ちゃんと」は、一方で、モダリティ形式との共起制限が見られないことから、陳述副詞や評価の副詞とも異なることを述べる。結論として、「命題の中で、命題内容に関して付加的な情報を非限定的に追加する」という働きを持つ副詞を、新たに位置づける必要があることを主張する。

従来、様態の副詞あるいは擬態語と見なされてきた「ちゃんと」について、統語的観点から様態の副詞とは異なる機能があることを述べているといえる。

しかし、「命題の中で、命題内容に関して付加的な情報を非限定的に追加する」という働きの「ちゃんと」について、主に意味的観点から用例を分析しており、様態の副詞の「ちゃんと」との相違点が明確に示されていない。そのため、実際に両者が異なる副詞であるかは断定できない。統語的観点からの分析をさらに発展させ、両者の相違点を明らかにすることが、「ちゃんと」の機能を分析する上で重要だと思われる。

また、モダリティ形式との共起制限が見られないことを理由に、「ちゃんと」が陳述副詞や評価の副詞とも異なることを述べているが、共起制限に関する記述は十分とは言えない。そのため、「命題の中で、命題内容に関して付加的な情報を非限定的に追加する」という働きを持つ副詞の位置づけについても、あらためて検討する必要がある。

2.4 先行研究のまとめ

先行論が指摘した内容を表1に整理する。擬態語あるいは動き様態の副詞としての「ちゃんと」をⅠ型と仮称する。また、今西(2004)が提示した、「命題の中で、命題内容に関して付加的な情報を非限定的に付加する」副詞としての「ちゃんと」をⅡ型と仮称する。ただし、Ⅰ型とⅡ型はあくまで連続的であると考えられる。特に意味機能の観点において、両者を明確に分けることは難しいが、ここでは統語的条件からⅠ型とⅡ型を分けることにする。

表1 先行研究のまとめ

| 型 | 副詞の種類 | 意味機能 | 係り先 | 否定文における位置 |
|---|------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|-----------|
| Ⅰ | 動き様態の副詞 (擬態語) | 理想や規範の状態に完全に合致して模範的である様子を表す (飛田・浅野2002、今西2004) 明快さ・正確さを表しながら、周道的存在として、動きの勢い・強さに関わる (仁田2002) | 動詞 接尾語 (-している、-した) | 否定のスコープ内 |
| Ⅱ | 「命題の中で、命題内容に関して付加的な情報を非限定的に付加する」副詞 | 話し手の持つ理想的・模範的な事柄に関する知識を背景として、ある事柄をこれら知識との一致という観点から意味づける | 動詞 名詞 形容詞 | 否定のスコープ外 |

Ⅰ型は、主に動詞に係り、その動作行為の行い方を表す。Ⅰ型には、「している」及び「した」に係る形状動詞²としての例が含まれる。形状動詞の例は、サ変動詞「する」に係る例との判別が問題となるが、両者は対象格を項にとるか否かで判別することが可能である³。

一方で、Ⅱ型は動詞だけでなく、名詞や形容詞にも係る。また、否定文においては、否定のスコープ外に位置できる。このように、基本的には統語的条件からⅠ型とⅡ型を分類することが可能である。

ただし、「ちゃんと」が動詞に係る例と否定文に出現する例については、Ⅰ型とⅡ型に共通して見られるため、統語的条件から分類することが難しいことがある。そこで、「ちゃんと」が動詞に係る例(11)と、否定文に出現する例(12)における、Ⅰ型とⅡ型を比較してみよう。(12a)(12b)では、「ない」が否定する範疇、すなわち否定のスコープを大括弧 () で示してある。

²金水(1994)は、形容詞的な意味を持っていて、連体修飾では「～タ」、述定では「～テイル」または「～テアル」で現れる述語を「形状動詞」と呼ぶ。形状動詞の中でも、「ちゃんと」は、「動詞自体がほぼ形容詞的の用法専用であり、もともと出来事の意味を持たない」、「連体修飾の～タのほかに述定の～テイルの形を持つことを典型とする」という特徴を有する「語彙的形状動詞」に該当する。

³例えば、「窓との防水がちゃんとしていない」は、「防水をする」のように対象格が想定できるため、形状動詞ではなく、サ変動詞「する」に係る例と考えられる。

- (11) 彼は指示されたとおりに、ちゃんと動く。
 a 動き方の指示を守って、動く。
 b 動くよう指示されて、動く。 (筆者による作例)
- (12) 彼は指示されたとおりに、ちゃんと動かない。
 a 彼は指示されたとおりに、[[ちゃんと動か]ない]。
 =動き方の指示を守らず、動く。
 b 彼は指示されたとおりに、ちゃんと[[動か]ない]。
 =「動くな」という指示を守って、動かない。 (筆者による作例)

(11)は、(11a)と(11b)のように二通りの解釈ができる。(11a)は、動き方を話題とする場合で、「ちゃんと」はⅠ型と考えられる。一方で、(11b)は「動く」ことの実現の有無が話題となる場合で、「ちゃんと」はⅡ型と考えられる。

同様に、(12)においても、否定される対象に応じて、二通りの解釈が可能である。まず、(12a)のように、「ちゃんと動く」が否定される場合、「ちゃんと」は否定のスコープ内にあり、Ⅰ型と判断できる。このとき、前文脈として「彼」は動き方を指示されたことが考えられる。一方で、(12b)のように、「動く」が否定される場合、「ちゃんと」は否定のスコープ外にあり、Ⅱ型と判断できる。このとき、前文脈として「彼」は動かないよう指示されたことが考えられる。

また、(11b)と(12b)では、いずれもⅡ型である「ちゃんと」を取り除いても、(11)「彼は動く」、(12)「彼は動かない」という事態の内容は変化しない。これは工藤(2014)等で指摘されている、「それを取り除いても文の属性的内容＝知的意味には変化がない」という陳述副詞の副次的特徴とも一致する。この点において、Ⅱ型の機能は陳述副詞的な側面を有していると言える。そのため、Ⅱ型が「命題の中で」機能するという、今西(2004)の指摘には疑問が残る。

(11a)と(11b)、(12a)と(12b)に見られる解釈の異なりは、「ちゃんと」の機能の別、すなわち、Ⅰ型とⅡ型の文法的機能にもとづくと考えられる。そのため、「ちゃんと」の機能について明らかにするためには、Ⅰ型とⅡ型のそれぞれについて分析する必要がある。そこで、次節以下では、実際の用例からⅠ型とⅡ型のそれぞれに注目し、考察を行う。

3. 調査と分析

3.1 調査資料

先行論では、小説・シナリオからの用例や作例を中心に考察が進められており、用例の出典にはやや偏りがあると言える。そこで、本稿では、現代語の「ちゃんと」の使用実態を幅広いレジスターにおいて把握するため、『現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』(以下、BCCWJ)を用いて用例を採取する⁴。採取した「ちゃんと」の用例数を表2に示す。

表2 BCCWJにおける「ちゃんと」の用例数とレジスター

| 図書館 書籍 | 特定目的 知恵袋 | 特定目的 ブログ | 出版 書籍 | 特定目的 ベストセラー | 特定目的 国会会議録 | 出版 雑誌 | 出版 新聞 | 特定目的 広報誌 | 特定目的 教科書 | 特定目的 韻文 | 計 |
|-----------|-------------|-------------|----------|----------------|---------------|----------|----------|-------------|-------------|------------|------|
| 1830 | 1695 | 1462 | 1398 | 337 | 314 | 218 | 25 | 12 | 8 | 1 | 7300 |

⁴ コーパス検索アプリケーション『中納言』2.4、データバージョン1.1を使用した。語彙素読みで「ちゃん」とをキーに設定し、短単位検索を行った。

表2より、書籍、知恵袋、及びブログで多用されていることが看取される。一方で、新聞や広報誌、教科書には用例数が少ないことがわかる。

3.2 分類の方法

実際の用例から「ちゃんと」の機能について考察するためには、まず、用例をⅠ型とⅡ型に分類した上で、それぞれの確例から分析を行う必要がある。

先述の通り、Ⅰ型とⅡ型の分類は、「ちゃんと」に係る語は何か、という統語条件が主な基準となる。ただし、「ちゃんと」が否定文に現れる場合、及び「ちゃんと」が動詞に係る場合は、一見しただけではⅠ型かⅡ型かの判断が難しい。前者の場合は、前後文脈から推察せざるを得ない。しかし、後者の場合は、係り先の動詞の種類から分類が可能である。例えば、典型的な動き様態の副詞「ゆっくり」は、存在動詞「ある」に係ることができない。このことから、存在動詞に係る「ちゃんと」はⅡ型であることが考えられる。

以上を踏まえ、「ちゃんと」に係る語、前後文脈及び動詞の種類という観点から、用例をⅠ型とⅡ型に分類する。

3.3 全体の調査結果

各レジスターの用例を最大350例までランダムに抽出し、合計2315例を対象とする。「ちゃんと」に係る品詞ごとに分類した結果を表3に示す。

表3 レジスター別に見た「ちゃんと」に係る語

| レジスター 係り先 | 図書館 書籍 | 特定目的 知恵袋 | 特定目的 ブログ | 出版 書籍 | 特定目的 ベストセラー | 特定目的 国会会議録 | 出版 雑誌 | 出版 新聞 | 特定目的 広報誌 | 特定目的 教科書 | 特定目的 韻文 | 計 |
|--------------|-----------|-------------|-------------|----------|----------------|---------------|----------|----------|-------------|-------------|------------|------|
| 動 詞 | | | | | | | | | | | | |
| 非存在動詞 | 322 | 333 | 316 | 318 | 315 | 299 | 206 | 23 | 12 | 7 | 1 | 2152 |
| 存在動詞 | 25 | 16 | 11 | 27 | 18 | 14 | 8 | 2 | 0 | 1 | 0 | 122 |
| 形容詞 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 名詞 | 1 | 1 | 17 | 3 | 3 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 27 |
| 不明 | 1 | 0 | 6 | 2 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 11 |
| 計 | 350 | 350 | 350 | 350 | 337 | 314 | 218 | 25 | 12 | 8 | 1 | 2315 |

表3より、各レジスターに共通して、動詞に係る例が最多であることがわかる。その割合は、存在動詞も含めると、2315例中2274例(98.2%)と極めて高い。また、名詞や形容詞に係る例は見られるものの、合計30例(1.3%)と非常に少ない。一方で、存在動詞に係る例は122例(5.3%)と少ないながらも一定数が得られた。なお、「不明」と分類した例は、(13)のように、「ちゃんと」がどの語に係るのか不明な例である。

(13) 「社長！今ちゃんと話を…」河野の登場に、杉本はさらに慌てた。

(浅見茉莉『よくばりな恋のシナリオ』2001)

次節から、「不明」とした11例を除いた2304例のうち、確実にⅠ型かⅡ型かに分類が可能と考えられる例に注目し、その統語条件ごとに分析していく。

4. Ⅰ型とⅡ型の確例

4.1 Ⅰ型と判断できる例

4.1.1 「している」や「した」を伴う形

「している」や「した」を伴い、形状動詞として形容詞的に用いられる「ちゃんと」は、そのほとんどがⅠ型として判断可能である。(14)のように連体修飾に用いられる例は170例、(15)のように述定に用いられる例は17例ある。

- (14) 《失礼な口など利きませんでしたか?》「いや、ちゃんとした言葉遣いだったよ。元サラリーマンだって言ってたけど、営業畑でやってた人じゃないかい?」

(秋月こお『華麗なる復讐』2004)

- (15) そのくらいでグラついてしまうような個性は、個性とはいえない。これは、僕がちゃんとしているといばっているわけではなくて、そういう本物のディレクターを僕も目指している、ということなんです。(中島信也『佐藤雅彦全仕事』1996)

(14)は、ある人物の言葉遣いが丁寧であったことを述べる例である。(15)は、理想のディレクター像について述べる場面の例である。いずれも「言葉遣い」や「僕」の状態が、話し手の理想や規範に合致するかを「ちゃんと」が表しており、Ⅰ型の例と考えられる。

「している」や「した」を伴う「ちゃんと」の例は、その語彙的意味が状態的意味として現れた、Ⅰ型の典型例として考えられる。森重(1959:182)によると、擬態語は、「一する」の形で状態的意味に決定的となり、さらにその意味を高度化するために「一して」や「一した」に活用するとされる。「ちゃんと」が、形状動詞として状態的意味を表すために用いることができるのは、動き様態の副詞の中でも、擬態語としての性格を有しているからであろう。

ただし、「ちゃんとした」の形にも関わらず、文脈上はⅡ型とも判断できそうな例(16)が見られる。

- (16) ちなみに、鏡花さんはちゃんとした男です。名前は女性っぽいですが。

(Yahoo!ブログ 2008)

(16)は、鏡花という創作中の人物が男性であることを補足する例である。理想・模範に合った男性であることを説明することで、「鏡花は男である」という事実を強調していると考えられる。そのため、文脈上は「鏡花が男かどうか」を話題としているとも考えられ、Ⅱ型の例として考えることも可能である。しかし、形状動詞として、どのような男性かを説明するⅠ型の例と判断する方が適切であろう。(16)からもⅠ型とⅡ型の連続性が見出せると言えよう。

4.1.2 やり直しの行為指示

すでにその行為を行っている被指示者に対し、指示者があらためて同じ行為を指示するような行為指示表現(以下「やり直しの行為指示」)において、「ちゃんと」はⅠ型と考えられる。

- (17) 「写真を撮ってもらうのよ、ヌードの」「ヌード写真だって?」「まだわからないけど、こっちの気分次第ね。ひょっとしたら脱がないかもしれない」「一体どういうことなんだ。ちゃんと説明しろよ」(五木寛之『四季・奈津子(上)』1979)

- (18) 奈央子も小柄な方ではないが、男の腋の下に手を入れ、無理やり歩かせるのはかなりの重労働であった。エレベーターに乗せ、くずれ落ちそうになるのを励ました。「ほら、ちゃんと立ってよ。もうじきなんだから」(中略)黒沢は壁にもたれかかるようにして立っていた。(林真理子『D o m a n i 2001年8月号』2001)

(17)は、ヌード写真を撮影するに至るまでの経緯を説明するよう求める、行為指示表現の例

である。(18)は、自力で立っていることのできない人物に対する、行為指示表現の例である。いずれも、被指示者が、「説明する」や「立つ」といった動作行為を行っているものの、その行い方が不完全であるために、指示者が「ちゃんと」を使って、理想的・模範的な動作行為をやり直すよう指示している。つまり、これらの例は、動作の行い方を限定する行為指示表現であると考えられ、「ちゃんと」はI型と考えられる。

ただし、今回の調査において、やり直しの行為指示表現の例と明確に判断できる例は、上記2例のみであり、行為指示表現全体の例(107例)と比べても少ない。その他の行為指示表現の例(105例)は(19)(20)のように、I型かII型の判別が難しい例である。

- (19) 「…暖かい部屋は確かに快適ですが、たまには風を通してやらないといけません。毎日の掃除のときにでも窓をちゃんと開け放してください。だいぶ違うはずですよ」

(篠田節子『レクイエム』2002)

- (20) 息子は、式の欄を飛ばして、一気に答えの欄に「3コ」と書こうとしています(中略)
「式書かなくても、答え分かるモン!」と息子。「何回言わせるの、ちゃんと式を書きなさいといつも言っているでしょ!」

(ストロング宮迫/タイガー山中『「新」勉強の常識 成績がイイ子の親だけが知っている!』2005)

(19)は、窓の開き方を指示しているのか、窓を開けることを指示しているのか判別ができない。つまり、「ちゃんと」はI型かII型か、判断ができない。(20)は、計算の途中式を書かない息子に対し、式を書くことを母親が指示している。つまり、式の書き方を指示する例とは考えにくく、「ちゃんと」はII型と考えることができる。しかし、一方では、問題の解き方について指示する例として、「ちゃんと」はI型とも考えられる。

4.2 II型と判断できる例

4.2.1 名詞に係る場合

「ちゃんと」が名詞に係る例は17例見られる。この分類においては、今西(2004)が指摘するように、「ちゃんと」はII型と考えられる。

- (21) 目が覚めてしまって、こんな時間に起きています。明日? 今日? 仕事がお休みではなくて、ちゃんと仕事なので、これからもう少し寝たいと思います。(Yahoo!ブログ 2008)
- (22) 大根をパスタ代わりにしてるけど、味はちゃんとペペロンチーノ。

(『いきなり! 黄金伝説。超節約レシピ 50』2000)

(21)は、通常通り仕事があることを述べる例である。(22)は、大根を代用しても、ペペロンチーノの味がすることを述べる例である。いずれも、動作行為の行い方を話題とする例とは考えにくい。また、「ちゃんと」を取り除いても、(21)は「(今日も)仕事がある」、(22)は「ペペロンチーノの味がする」という事態そのものは変わらない。「ちゃんと」がII型の例と考えられる。

今西(2004)はII型の機能として「話し手の持つ理想的・模範的な事柄に関する知識を背景として、ある事柄をこれら知識との一致という観点から意味づける」ことを述べていた。そこで、(21)と(22)における背景知識を考えてみる。

(21)では、日常の習慣的事実から、当日も仕事であるという知識を得ていると考えられる。その知識を元に「予定通り仕事がある」という事態を認識していると考えられる。(22)では、

レシピ本通りに作ることで、レシピに書かれた料理が再現できるという知識を得ていると考えられる。その知識を元に「ペペロンチーノの味がする」という事態を認識していると考えられる。

4.2.2 形容詞に係る場合

「ちゃんと」が形容詞に係る例は3例見られた。

- (23) 信子は父に言った。「どうせまたアル中の人だね」だが、義文は小銭を数えながら首を振った。「ありゃ違うよ。顔が酒灼けてねえし、白目がちゃんと白いからな」

(宮部みゆき『理由』2004)

- (24) トキ ほかにとりえがありませんから。(中略) ろくな食物もいただかなくとも、ちやーんとこのように元気でございます。

(五木寛之『蓮如 われ深き淵より』1995)

(23)は、話し手は、男がアルコール中毒ではないことを、男の白目から推測する例である。(24)は、話し手が、自らの取り柄である元気の良さを示す例である。いずれの例においても、話し手は自らが持つ知識と、実際の事態を照らし合わせて認識し、両者が一致することを述べている。「ちゃんと」は、名詞に係る場合と同様に、II型と考えられる。

4.2.3 存在動詞に係る場合

「ちゃんと」が存在動詞に係る例は、先行論において議論されていないが、今回の調査の結果、122例と一定数が得られた。この分類において、「ちゃんと」は動き様態を表さず、II型に該当すると考えられる。

- (25) 「大学ちやうちやうところは、ええところすな。のんびりしちよって、自由で、しかしどこかに学問の匂いがちゃんとある」 (宮本輝『宮本輝全集 第12巻』1993)

- (26) ちゃんと恋人がいるのに他の異性と必要以上に仲良くするような人間を私は誠実な人間とはみなさない。(Yahoo!知恵袋 2005)

- (27) 各々の研究には、それなりに一つの目標がちゃんとあるんだろうと思うんですね。

(伊藤鉄也『『源氏物語』の異本を読む「鈴虫」の場合』2001)

(25)は、大学の雰囲気について述べる例であり、「学問の匂い」が確実に存在することを述べている。(26)は、恋人がいる人の振る舞い方について述べる例であり、「恋人」が実際に存在することを述べている。(27)は、研究にはそれぞれ目標があることを推測する例である。

(25)及び(26)と(27)では、話し手の事態の認識の仕方が異なる。(25)(26)では、話し手は「学問の匂い」と「恋人」の実際の存在を認識している。一方、(27)では、「研究には目標がある」という知識あるいは期待を元に、事態を推量している。このように、現実の事態を実際に認識していなくとも、知識と一致させるという意味付けは行われており、「ちゃんと」はII型と考えられる。

4.2.4 パーフェクトを表すテイル形に係る場合

「ちゃんと」が、パーフェクトを表すテイル形に係る場合、II型と考えられる。パーフェクトとは、「ある設定された時点において、それよりも前に実現した運動がひきつづき関わり、効

力を持っていること」(工藤 1995:99)を表すアスペクトの意味である。(28)は、テイル形が状態パーフェクト(結果継続)を表す例、(29)はテイル形が動作パーフェクトを表す例である。

(28) タミヤ本社見学でGETした非売品のスクータープラモデル。ちゃんと「田宮模型見学記念」と入ってます。(Yahoo!ブログ 2008)

(29) 「やだな。ひと月以上家賃を滞納したら、部屋を明け渡してもらうこともあると、ちゃんと契約書に書いてますよ。…」

(新野剛志『ザ・ベストミステリーズ 推理小説年鑑 2000』2000)

(28)は、プラモデルが記念品であることが示されていることを述べる例、(29)は、契約書の記載内容を確認する例である。いずれの例も、「入れる」や「書く」という動作行為は既に実現しており、「入っている」、「書いている」といった動作行為の結果について述べている。そのため、「ちゃんと」は動作行為の行い方を表すI型とは判断しがたい。

5. 考察

本稿では、I型は評価的な修飾成分、II型は評価成分として機能する副詞と考える。評価的な修飾成分とは、「意味的には評価を表すといえるものでも、行為や出来事(状態変化)のあり方を(について)限定するもの」(工藤 1997:59)であり、「上手に」や「おいしく」などが該当する。一方、評価成分とは、「文の叙述内容に対する話し手の評価を表す、先行する独立的成分」(工藤 1997:57)であり、「さいわい」や「あいにく」などが該当する。例えば、以下の(30)において「親切に」と「親切にも」は、いずれも太郎の行為に対する話し手の評価を表す。評価的な修飾成分である「親切に」は、「やさしく、ていねいに」といった意味の方向にずれており、行為の様態を限定する修飾用法(工藤 1997:60)とされる。一方で、評価成分である「親切にも」は、「行為自体は限定しておらず、太郎の行為に対する評価用法」(工藤 1997:60)とされる。

(30) a 太郎は、地図を書いて、道順を親切に教えてくれた。

b 太郎は、親切にも、地図を書いて道順を教えてくれた。

(工藤 1997:59-60)

評価的な修飾成分と評価成分は、何を対象にして話し手の評価を表すかという点で異なる。評価的な修飾成分は事態に内属する動作行為のあり方を対象に評価を表し、評価成分は事態の内容を対象に評価を表す。

しかし、一方で、話し手の評価を表すという点において、評価成分と評価的な修飾成分は連続する。また、両者間には「連続相—相互移行」の現象があることが指摘されている(工藤 1997:60)。

以下では、I型が評価的な修飾成分、II型が評価成分に該当すると考える理由を二点述べる。

5.1 II型の意味機能と「評価」

一点目は、II型の「事柄を知識との一致という観点から意味づける」という意味機能が、評価成分の表す「評価」に相当すると考えられるからである。

工藤(1997:57)では、「評価」について「情意的なものもあれば、知的なものもある。個人的な予想や期待を基準にした評価もあれば、共同主観的ないし社会的に定着した評価、いわゆる評判や定評もある」と述べられる。

4節において、Ⅱ型の用例から確認したように、話し手はⅡ型を用いることで、様々な基準から事態の内容が自分の知識と一致することを述べていた。つまり、話し手は、ある基準から「自分の知識と一致する」ということを評価・判断し、事態の内容に対して意味づけていた。この点において、Ⅱ型は話し手の評価を表していると考えられる。

さらに、「独立的成分」という部分にも注目したい。工藤(1997:59)は「評価成分は、機能的には「文の叙述内容に対するもの」、つまり対立するもの、独立するものであって一次的には叙述内容を詳しくするものではない」と述べている。Ⅱ型は、それを取り除いても、事態の内容には変化が見られなかった。つまり、独立的成分としての特徴を認めることができる。以上のことから、Ⅱ型は、評価成分としての資格を満たしているものと思われる。

ただし、本稿では、Ⅱ型の共起制限まで検証できていない。よって、現時点では、典型的評価成分とまでは断言できないが、評価成分として機能する副詞として考えることができるのではないだろうか。

5.2 I型とⅡ型の連続性

二点目は、I型とⅡ型の連続性が評価という観点から説明可能になるからである。先述したように、評価的な修飾成分と評価成分の違いは、何を対象に話し手の評価を表すかという点にある。そして、評価成分と評価的な修飾成分の関係性は、I型とⅡ型の関係と並行的である。このことは、I型とⅡ型の確例に見られる統語的条件にも反映されていると考えられる。「ちゃんと」は、名詞、形容詞、存在動詞、及びパーフェクトを表すテイル形に係る場合に、Ⅱ型と分析できる。これらは状態性述語、あるいは実現した動作が効力を持っていることを表す形式である。つまり、「ちゃんと」は、事態に内属する動作行為の行い方を表すという解釈が許容されない。その結果、Ⅱ型としての解釈が優勢となると考えられる。

統語条件からⅡ型は様態の副詞とは考えにくい。そのため、I型とⅡ型は異なる機能と捉えられるが、評価を表すという点において極めて連続的であると考えられる。

6. おわりに

本稿は現代日本語における「ちゃんと」の機能について考察を行った。結論として、動き様態の副詞であるI型は、評価的な修飾成分として、事態に内属する動作行為の行い方を評価の観点から限定する機能と分析した。また、先行論において、その位置づけが問題となっていたⅡ型を評価成分として機能する副詞として捉えた。Ⅱ型はI型と異なり、事態の内容に対する話し手の評価を表すものと考えられる。

参考文献

- 今西利之(2004)「副詞「ちゃんと」の意味記述：話し手による事柄への意味づけということ」『熊本大学留学生センター紀要』8、pp.1-11
- 金水敏(1994)「連体修飾の「～タ」について」田窪行則編『日本語の名詞修飾表現一言語学・日本語教育・機械翻訳の接点』くろしお出版、pp.153-171
- 工藤浩(1997)「評価成分をめぐる」川端善明・仁田義雄編『日本語文法 体系と方法』ひつじ書房 pp.55-

- 工藤浩(2014)「陳述副詞」日本語文法学会編『日本語文法事典』大修館書店, pp.404-405
- 工藤真由夷(1995)『アスペクトテンス体系とテキスト—現代日本語の時間の表現—』ひつじ書房
- 仁田義雄(2002)『新日本語文法選書3 副詞的表現の諸相』くろしお出版
- 飛田良文・浅田秀子(2002)『現代擬音語擬態語用法事典』東京堂出版
- 森重敏(1959)『日本文法通論』風間書房

例文出典

国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(中納言 2.4、データバージョン 1.1 を使用、最終閲覧日 2020 年 1 月 12 日) pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj